

第5学年『流れる水のはたらき』の評価計画イメージ (全11時間計画)

過程	学習活動	ワークシートの記述	ノートの記述	思考力にかかわる評価項目
1 つかむ	流れの速さや水の量を観察し、水が削られたり、泥がたまり、土が流れたりする様子を観察し、課題を設定する。	分かったこと ・流れの速さや水の量が急だと、土が流れる。 ・坂が急だと、土が流れる。 ・友達の見え方が速い。 ・力の強い方が流れる速い。	・家が流された。 ・カーブの外側がけられず、内側はどろがたまっていく。 ・水の量が多いと、たくさんけられず。 ・カーブの外側は流れが速い？	地面の変化を水の流れの速さや量と関係付けてとらえている。 A B 地面の変化の様子を具体的にとらえて記述している。 C 地面の変化を具体的に記述できていない。 流れの速さや水量などの要因と結び付けて変化をとらえている。
2 追究する	要因を実験で調べる。制御する要因を調べる。実験計画を立て、結果を調べる。	調べてみたいこと ・水の流れる速さや水の量を調べる。 ・山の高さや傾き、水の流れる速さや水の量を調べる。 ・水の量を急な坂で調べる。	・カーブの外側がけられず、内側はどろがたまっていく。 ・大きな山の方が、水が流れる速い。 ・水の量が急な坂で多くなる。 ・水の量が急な坂で多くなる。	地面の変化と、それにかかわる要因とを関係付けた実験計画を立てている。 A B 変化とその要因に着目した実験計画を立てている。 C 変化と要因を関係付けた実験計画を立てていない。 具体的な実験計画を立て、結果の見通しをもっている。
		友達の意見を聞いて参考になったこと ・山の高さや傾き、水の流れる速さや水の量を調べる。 ・水の量を急な坂で調べる。	先生からアドバイス ・速さの働きを調べるから、水の量は変えちゃいけない。 ・速さ以外の条件はそろえる。 ・調べたい条件以外の条件はそろえる。 ・変える...坂の傾き ・変えない...水の量	流れる水の働きについて、水の速さや水の量と関係付けた考えを深め、要因を計画的に制御した実験計画を立てることができる。 A B 要因を計画的に制御した具体的な実験計画を立てている。 C 要因を制御した実験計画を立てることができない。 要因を計画的に制御した具体的な実験計画を立て、結果の見通しをもっている。
3 まとめる	調べた結果をまとめ、実験計画を立て、結果を調べる。	分かったこと・私の考え ・水の流れる速さや水の量が急だと、下へ谷が深くなる。 ・水の量が急な坂で多くなる。 ・水の量が急な坂で多くなる。 ・水の量が急な坂で多くなる。	・流れが速いと下へけられず、内側はどろがたまっていく。 ・水の量が増えると、川幅が広がる。 ・流れが速くなると、土がたまっていく。 ・水の量が増えると、土がたまっていく。 ・流れが速いと、土がたまっていく。	水の流れる速さや水の量と関係付けながら考え、流れる水の働きについて表や図、文章などを用いてまとめ、表すことができる。 A B 「削る」「運ぶ」「積もらせる」の三つの働きと、速さや水量、斜面の傾きなどとの関係について正しく記述している。 C 三つの働きと、速さや水量、斜面の傾きなどとの関係についてまとめられない。 三つの働きと、自分の課題追究結果を結び付けて考えることができる。
4 高める・振り返る・つなげる	流れる水の働きを深く理解し、生活に活かす。	分かったこと・私の考え ・川原の石が丸いのは、水が流れるから。 ・川原の石が丸いのは、水が流れるから。	・カーブの外側は崖になっている。 ・内側は丸い石がゴロゴロ。水が流れて、石が落ちていく。 ・水の量が急な坂で多くなる。 ・水の量が急な坂で多くなる。	流れる水の働きについての学習成果を自然とのかかわり方に生かしていくための考えを、具体的に示している。 A B 流れる水の働きの学習内容と自分の生活とのかかわりについて、自分の考えを記述している。 C 学習内容と生活とのかかわりや、学習成果について記述できない。 岩石の形状や大きさの変化についても言及している。
		分かったこと・私の考え ・川原の石が丸いのは、水が流れるから。 ・川原の石が丸いのは、水が流れるから。	・カーブの外側は崖になっている。 ・内側は丸い石がゴロゴロ。水が流れて、石が落ちていく。 ・水の量が急な坂で多くなる。 ・水の量が急な坂で多くなる。	流れる水の働きについての学習成果を自然とのかかわり方に生かしていくための考えを、具体的に示している。 A B 流れる水の働きの学習内容と自分の生活とのかかわりについて、自分の考えを記述している。 C 学習内容と生活とのかかわりや、学習成果について記述できない。 学習の成果や意義について具体的に考え記述している。